

## 雑草イネ（赤米）の発生状況について スマートフォンアプリを活用して調査しています

雑草イネ（別名；赤米）とは、水稻の収量や品質を低下させてしまう厄介な水田雑草です。近年、全国的にも問題になっており、佐久地域でも発生が確認されています。この雑草イネは、穂が出て2週間後から籾が自然に落ち始め、容易に発生拡大してしまい防除を難しくしてしまいます。そのため、地域が一丸となって対策を講じていく必要があります。

佐久地域では、一部市町村、JA 佐久浅間、NOSAI 長野佐久支所、佐久農業農村支援センターで、佐久地域雑草イネプロジェクトチームを結成して活動しています。

これまでも、雑草イネの拡大を防ぐ活動の一環として、7月下旬からの雑草イネの出穂期以降、どの地域で雑草イネが発生しているかを調査してきました。一昨年度までは、白地図などを用いて調査してきましたが、昨年度から、信州大学と協働してスマートフォンアプリなどを用いた方法により調査しています。今年度は、JA 佐久浅間の一部の部会にも協力いただき、広範囲での調査を実施しています。

8月までは籾の先の“ふ先色”で判断していた雑草イネですが、9月に入り雑草イネは脱粒（穂から籾が落ち）して栽培しているイネとの見分けがさらに容易になっています。

調査結果については、佐久地域雑草イネプロジェクトチームで共有し、啓発活動を効果的に行い、佐久地域の雑草イネの発生抑制に努めてまいります。



スマートフォンなどを用いて  
発生圃場を記録



脱粒した雑草イネ